



襟裳岬



猿留山道沼見峠

えりも町

ふるさと再発見 シリーズ 2



住吉神社



奥山伴僧坊大権現

石
碑
石
仏

えりも町郷土資料館
水産の館

はじめに

えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館では、平成10年より町民有志と共同で町内の石碑石仏の調査をおこない、江戸・明治・大正・昭和と各時代の石碑石仏を数多く確認することができました。これらの石碑は、えりも町の歴史を刻み伝えるものです。

本誌を手にし、各地区に残る石碑石仏を訪れ、碑文を読みながら、その由来を知り、えりも町の歴史学習の一助になることを願っています。

今回碑文を全文記載することができませんでした。石碑を訪れ碑文を一字一字解説すると歴史を感じることができるでしょう。

新しい時代の石碑石仏は本誌には記載していませんが、町内に数多くありますので、探してみてください。

掲載した石碑石仏の選考基準は、次のとおりです。

- 1) えりも町は馬産地であったので、馬頭観音はすべて記載する。
- 2) 原則として昭和20年(1945年)以前に建立されたものを記載する。
- 3) 年代が不明な場合は、他の石碑石仏との関連を考慮し選考する。
- 4) 原則として墓石は除く。

記載順序は、建立年の古いものから順に、また所在地にも考慮した。

*石碑石仏の高さは、地上からの高さ。

*□は欠字を表す。



①一石一字塔

所在地：百人浜悲恋沼

建立年：文化三年(1806年)

石材：岡山県産花崗岩

高さ：150cm

由来：碑文によると海難者の追善供養であるが、ひいては法力により安全な航海ができるようにとの願いがこめられている。大正十二年(1923)地元青年団員によって、庶野よりの地から現在の地に移され、礎石経などは確認されていない。

碑文：(表)[バク]一石一字塔

碑文解釈：(左)北海道の南東にある百人浜は、鉄のように堅い鋭い岩礁がそびえ並ぶ怒涛は山に向かうような大波です。海霧は終始沸きでて周囲を覆い隠し、そのため船乗り達もたちまちのうちに方向を見失ってしまうことが多く、このために遭難して溺れ死ぬ者が最も多いといわれている所です。あるときは1日に数隻も遭難することがあり、そのことは珍しいことでも不思議なことでもありません。八谷左吉は南部出身の人ですが幌泉会所支配人として長い間の海難事故に心を痛めていたのです。丁度、文化二年(1805)にときの幕府の命令を受けて私は、はじめに心教をひろめる為に、この地方に赴任してまいりました。

(背)この地方の住民たちは、八谷左吉と同じく皆心を痛めていたので、私に妙法蓮華經大十六品如来寿量品(約2400字数)のお経を一つの石に一字ずつ写経して追悼の供養を行って欲しいと請われたのであります。様似の勤番所詰合人である南部藩士田中定右衛門氏は、非常に喜んで法要を護衛することになりました。その時大変に不思議なことが突如起こったのです。法要の最中に、昔沈没していた船の帆柱がにわか浮き上がって岸辺に漂着致しました。驚いて帆柱をうやうやしく運んできて法要の席に祭ったのです。信仰の心仏に御心に達したことは明らかで疑う余地もなく私はこのことを喜んで思わず合掌し、たたえて詩を詠んだのでした。御仏の御教え、いよいよ整い熟しその御心は東北海道に布教伝播されました。溺死した者の靈魂

永い間さまよいし、その苦勞は今も曉の風のごとく吹き去りて、自ら戸を開けるように悩みが急に取りのぞかれた感にうたれ、にわかにめでたい感じが全身を走り抜け、せきを切ったように、涙がとめどなく流れ碑をぬらしてしまいました。

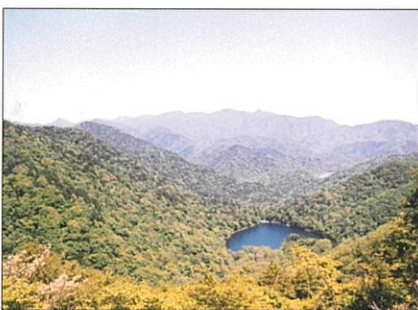
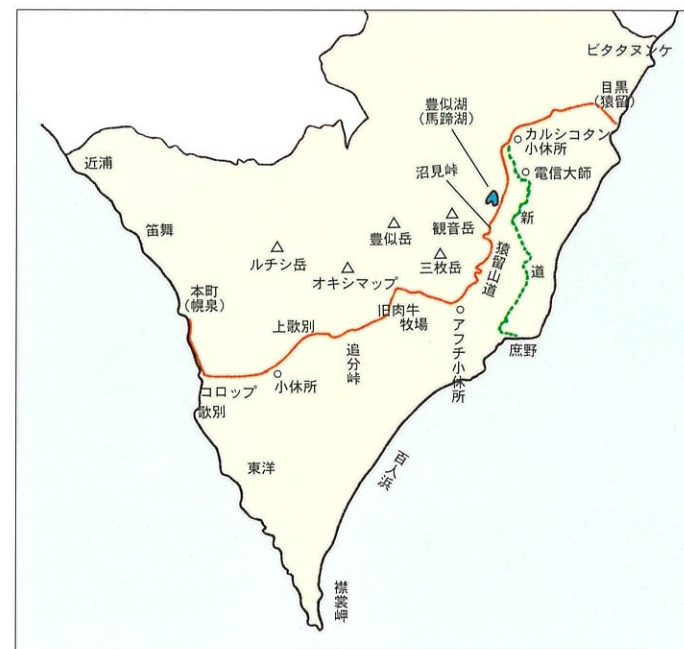
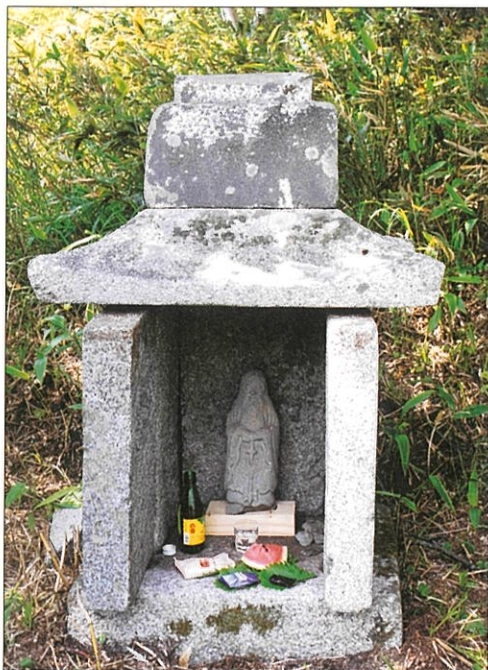
(右)仏の御教えによる供養の功德は永久に動くことなく、直ちに弥勒菩薩が説法する衆生済度の法、会場に至り一字一字は金の仏を現わし教化弘法のために果てしなく寄与することでありましょう。

文化三年旧曆九月中旬 帰郷向山第一世法師権大僧都 秀 暁 謹書

(基壇) 功德主 保呂泉館舎 (ホロイズミ会所)
管長 (ホロイズミ会所 支配人 八谷佐吉)
書守 (帳役)
譯人 (通詞-アイヌ語通訳)
守者 (番人)

百人浜の名の由来

「百人浜」という名は、江戸時代に描かれた地図や紀行文の中に記述されている。当時の地名はアイヌ語をカタカナで表記しているが「百人ハマ」「百人浜」と記述されていることから、和人が名づけたものである。百人浜の名の由来には、南部藩士難破による餓死説、シャクシャインのたたかい(1669)のアイヌ惨殺説、金堀罪人処刑説など諸説ある。「元禄御國絵図」「松前島郷帖(1700)」、寛永年間(1624~1643)~正保年間(1644~1647)の作と伝えられる「松前蝦夷図」に記載されていないことから、「百人浜」という地名が成立したのは、17世紀後半から18世紀にかけての時期と考えられ、文化5年(1808)の「東蝦夷地名考」、天明3年(1783)の「赤蝦夷風説考」に記述されている金堀罪人処刑説が有力である。



沼見峠からの眺望

② 妙見様と石祠

所在地：目黒猿留山道沼見峠
 建立年：安政六年（1859年）
 高さ：石祠130 c m
 碑文：石祠（右側）石工 長州赤馬関 大黒屋正兵
 （裏）安政六年巳未九月秋吉祥日
 （左側）願主 ホロイツミ御場所
 請負人 杵浦嘉七
 支配人 卯三郎
 惣番人中

由来：江戸時代、蝦夷地の中心地松前と千島択捉・根室との連絡はもっぱら木造帆船の北前船か、海岸沿いを歩くしか手段はなかった。帆船での移動は風まかせであり、幌泉（現在のえりも町本町）と広尾間は急峻崖が海に落ち込み、暴風波浪のため通行の難所であった。江戸幕府は、浦河より東の東蝦夷地を直轄にし、ロシアの南下、外国船の来航の情報を確実にいち早く伝え、かつ、北方警備のための兵力物資の的確な輸送のために、寛政十一年（1799）幌泉～猿留間の山道7里（約28 km）を開削した。これは幕府の公金を用いた北海道初の国家プロジェクトといえる。

石碑にある「場所請負人杵浦嘉七」は、函館の回漕業であり十勝幌泉両場所の漁場経営をしていた福嶋屋の二代目忠三郎のことである。当時は商人が幕府にお金を支払い契約し、その場所（地域）の管理や産物の商いを独占して行っていた。猿留山道を通行した旅人の紀行文は数多くあり、また、峠に石碑が建立されていることから、当時、幌泉と猿留間の通行が盛んであったことがうかがえる。

猿留山道が庶野市街を通過していないため、明治17年（1884）追分峠～庶野～猿留ワラビタイ沢への新道が開削された（図参照）。

現在、猿留山道は国道366号線、林道、町道に姿を変えているが、一部分が庶野～目黒にかけての山中に残り、歩くことができ、沼見峠から豊似湖（馬蹄湖）を眼下に見ることができる。

「妙見さん」として親しまれている妙見菩薩は、北斗七星または北極星を神格化したもので、星の信仰、海上安全、海上交易を営む大商人の信仰するところから商業の神、眼病平癒の神となり、民間の間に広く信仰された。

③ 馬頭歎世音菩薩

所在地：目黒猿留山道沼見峠
 建立年：文久元年（1861年）
 高さ：113 c m
 碑文：（表）馬頭歎世御菩薩
 （右）願主 請負人 杵浦嘉七
 （裏）文久元酉年五月吉日
 （左）支配人 宇三郎
 世話人 周平
 惣番人中

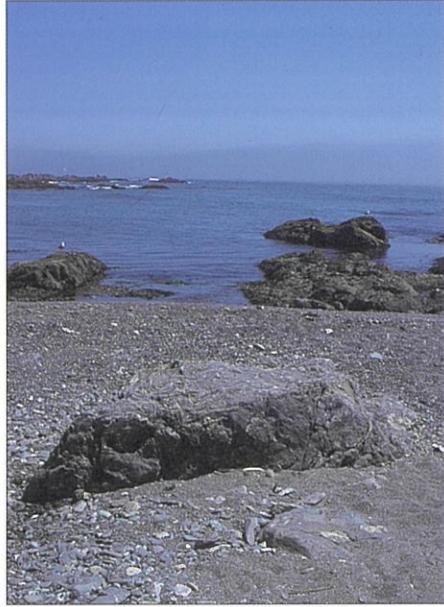
④ 幻の電信大師

所在地：目黒ワラビタイ沢
 建立年：大正5年（1916年）

函館～根室間の電信線は、幌泉～歌別～庶野～猿留山道新道～猿留を通っていた。大正5年全電柱に支線をつけた際、工事関係者の日々息災と熊よけを祈り自然石を集め建立された。しかし、現在、この碑を確認することはできない。



（想像図）



⑤當世武大明神

所在地：庶野トセップ
 建立年：慶應二年（1866年）
 碑文：（表）當世武大明神
 （右）慶應二丙虎歳
 （左）願主 請負人 秋浦嘉七豊明
 支配人紋藏
 惣番人中

高さ：83cm

由来：この石碑を祭っている佐々木広志氏によると、トセップの東側は小さな湾になっており断崖が迫っているが、強風が吹いた際、風待ちをできる場所であることから、江戸時代、風待ちをした帆船の関係者が航海の安全を祈願してこの地に建立したのではないかとのこと。また、東側の浜にある平らな石を「神様の石」と呼び、神様を船から下ろして、陸に上げる際、一番最初に下ろしたところと伝わっている。かつては、「神様の石に乗ったり、しょんべんかけると、おちんちん曲がるぞ!」といさめられた。馬の生産が盛んな頃、この辺は青年牧場で、馬が石碑に体をこすりつけて、石碑を倒した。その後、柵で囲い鳥居を建て祭った。この石碑には、観音開きの石戸がついていたが、壊れたので現在は周りに敷かれている。

「トセップ」とは、「トシセ・プ」の訛りであり、「凸出している・もの」と解釈でき、小山、円山のことをいう。松浦武四郎の東西蝦夷山川地理取調紀行には「トウセップ（大岩岬、穴有）是れにエリモの兄弟の神在すよし言伝ふ」と記している。

⑥神様の石



⑧不動明王

所在地：本町法光寺
 建立年：文化10年（1813年）
 高さ：84cm
 碑文：（裏）文化十年癸酉三月
 施主 高田屋

由来：幌泉場所は文化9年の幕府入札によって文化10年から嶋屋佐次兵衛が請け負うことになっていたが、実際には高田屋が経営していたと考えられる。文化9年高田屋嘉兵衛は国後島で捕えられカムチャッカへ移送され、文化10年5月国後へ戻り松前に着いたのは7月17日である。この石仏が奉納された時期、淡路島では、嘉兵衛と水主たちの無事帰国を祈願する奉納などがおこなわれており、この不動明王も帰国祈願の意味がこめられていたのかもしれない。



⑦狛 犬

所在地：庶野トセップ
 建立年：昭和2年（1927年）頃
 高さ：53cm
 碑文：（右）奉納 新妻富太郎
 （左）奉納 函館市

昭和2年、庶野の崎に木材運搬船美鳥丸が座礁した。各地から燃料を抜きに多くの人々が集まったが、時化ため燃料が流失し、大きな被害が生じた。積み荷の米材が被害補償の変わりに供出され、これを建築材として庶野神社が新しく建てられた。狛犬の奉納者は座礁した美鳥丸を救出した函館市のサルベージ会社の新妻富太郎で、海上の安全を祈願したのであろう。

えりも町の歴史年表

寛文 9年 (1669)	シャクシャインのたたかい このころの幌泉は松前藩士蠣崎蔵人の知行地
天明 6年 (1786)	幌泉、松前葉屋太兵衛請負
寛政 元年 (1789)	国後目梨アイヌのたたかい
寛政 10年 (1798)	近藤重蔵ルベシベツ山道開削 (ルベシベツ～ピタタヌンケ間)
寛政 11年 (1799)	幕府東蝦夷地を直轄 猿留山道(幌泉～猿留間)、様似山道開削
享和 2年 (1802)	東蝦夷地永久上地
文化 3年 (1806)	一石一宇塔建立
文化 9年 (1812)	幕府直轄制度廃止
文化 10年 (1813)	幌泉場所、嶋屋佐次兵衛請負(高田屋経営)
文化 11年 (1814)	住吉神社、襟裳神社建立(以上、嶋屋佐次兵衛建立)
文政 2年 (1819)	幌泉場所、高田屋嘉兵衛請負
文政 4年 (1821)	蝦夷地を松前家に復領する
天保 4年 (1833)	高田家取潰しとなる。
天保 9年 (1838)	幌泉場所、福嶋屋嘉七請負
天保 13年 (1842)	近浦稲荷神社、笛舞稲荷神社、 日黒稲荷神社建立(以上、福嶋屋嘉七建立)
弘化 3年 (1846)	歌露稲荷神社、油駒稲荷神社建立 (以上、福嶋屋嘉七建立)
安政 6年 (1859)	歌別稲荷神社建立(福嶋屋嘉七建立)
明治 7年 (1874)	庶野神社建立
明治 8年 (1875)	福嶋屋、幌泉から引揚げる 神社社格改正
明治 13年 (1880)	戸長役場が設置(開基とする)
明治 17年 (1884)	猿留山道新道開削
明治 20年 (1887)	幌泉産馬改良組合設立
明治 22年 (1889)	襟裳岬灯台設置
明治 27年 (1894)	日清戦争
明治 36年 (1903)	幌泉産牛馬組合認可設立
明治 37年 (1904)	日露戦争
大正 3年 (1914)	第1次世界大戦
大正 13年 (1924)	幌泉～様似間、道路開通
昭和 6年 (1931)	満州事変(15年戦争の幕開け)
昭和 8年 (1933)	三陸沖地震による津波来襲
昭和 9年 (1934)	黄金道路開通
昭和 12年 (1937)	日本、中国に侵略
昭和 14年 (1939)	第2次世界大戦
昭和 16年 (1941)	日本、米英と開戦
昭和 20年 (1945)	終戦
昭和 34年 (1959)	町政施行
昭和 45年 (1970)	「幌泉町」から「えりも町」へ町名改称



⑨石燈籠

所在地：住吉神社
 建立年：嘉永四年(1851年)
 碑文：(表) 奉納
 (右) ホロイツミ支配人 □役
 名越屋善吉 全和田屋元吉
 (左) 嘉永四年正月
 由来：江戸時代の場所請負人が奉納したものであるが、
 燈籠の一部が残るのみ。

⑩石燈籠

所在地：住吉神社
 建立年：不明
 碑文：(表) 奉納
 (右) ホロイツミ 福嶋屋喜四郎
 (左) なし
 由来：住吉神社裏に保管されている。江戸時代の場所
 請負人が奉納したものであるが、燈籠の一部が
 残るのみ。福嶋屋喜四郎は住吉神社裏に保管し
 ている⑩手水鉢を寄進しており、元治元年(1864)
 様似町幌満に和助地蔵を、近江屋藤重郎と建立
 している。

⑪手水鉢

所在地：住吉神社
 建立年：嘉永3年(1850年)
 高さ：36cm
 碑文：(表) 奉納
 (右) 嘉永三戌九月吉日
 (左) 願主 福嶋屋喜四郎

* 江戸時代、蝦夷地と本州を航路で結んでいた北前船
 は、蝦夷地に来る際、米、味噌、醤油、酒、衣類な
 ど蝦夷地で生産されない商品の他、船のバランスを
 取るために、石材を積んでいた。町内に残る江戸時
 代の石碑や石燈籠は、本州で加工され運ばれたもの
 か、バラストの石を蝦夷地で加工したものか、興味
 はつきない。



⑫襟裳岬襟裳神社跡



⑬クフルエ大明神

建立年：不明

所在地：歌別漁港近く

高さ：57cm

碑文：(表)クフルエ大明神

由来：通称「コップリさん」。由来不明であるが、現在、木造の祠に奉られている。江戸時代の探検家松浦武四郎が弘化二年（1845）に蝦夷地を歩いた記録「蝦夷日誌」には「ヲタヘツ砂浜有、並て凡十間斗クフルイ石ある也。並てモエ子ロ大石の字なり少し岬になる也。」と記述されている。この「クフルイ石」と歌別港に残る「クフルエ大明神」との関連について詳細な調査が必要である。

「クフルイ」とは、「クッ・フレ・イ」の訛りであり、「その崖・赤い・所」と解釈でき、歌別側河口東側の崖を指したと考えられる。



⑬手水鉢

所在地：えりも岬襟裳神社

高さ：49cm

建立年：嘉永三年（1850年）

碑文：(表) 奉献

(右) 願主 讃岐栗嶋 升屋虎蔵

(左) 嘉永三年戌 九月吉日

由来：碑文の讃岐栗嶋は、現在の香川県三豊郡詫間町栗島。江戸時代より海運が盛んであり、北前船で蝦夷地（北海道）との海産物などの交易によって栄えた島。文政10年（1827）には88隻の船があり、船主が一船一石仏を寄進して栗島に八十八ヶ所をめぐる島四国（遍路）が作られたところである。升屋はこのうち5体を寄進しているが、欠字が多く石仏に虎蔵の刻字は確認できていない。



⑭狛犬台座

所在地：えりも岬襟裳神社裏

建立年：不明

碑文：願主 ホロイズミ

御場所 支配人 卯三郎 惣番人中

由来：襟裳神社は建立当時、襟裳岬先端に位置していたが、地域住民の希望により現在地に移った。狛犬、台座ともに砂岩質で作られているため、風化が激しいが、神社裏に保管されている。花崗岩の台石、左右共に同じ碑文が確認されているが、奉納年・使用目的は不明である。「請負人 杉浦嘉七」の刻字がないが、猿留山道沼見峠の妙見様祠の碑文に「卯三郎」とあるので、同時代に奉納されたものと考えられる。



⑮石燈籠

所在地：えりも岬襟裳神社

建立年：文久元年（1861年）

碑文：(表) 御神燈

(右) 文久元年辛酉年八月十五日

(左) なし

由来：不明。



⑰手水鉢

所在地：住吉神社
 建立年：文久四年（1864年）
 高さ：80 c m
 碑文：（表）奉納
 （右）願主 福順丸 又助 文久四子年二月
 由来：福順丸がどの地域の商店の持ち船か、雇われ船か調査の必要がある。

文久は文久四年二月二十日に改号され元治元年となっている。



⑱石燈籠

所在地：目黒神社
 建立年：元治元年（1864年）
 碑文：（右）奉獻 セ治人 越後鬼舞 伊吉丸
 （左）奉獻 □場□□□ 中村□太郎 金太郎 熊二郎
 由来：越後鬼舞は新潟県西頸城郡能生町鬼舞村である。伊吉丸は廻船業伊藤助右エ門の持ち船で、安政6年（1859）に建造され、明治23年（1890）頃まで運航していた。伊藤家では、船頭水主はほとんどが雇い人であった。中村□太郎、金太郎、熊二郎については、中村姓は鬼舞村にはなく、他村からの雇い人と考えられる。



⑲狛犬

所在地：住吉神社
 建立年：不明
 高さ：139 c m
 碑文：（左狛犬台座）
 世話人 出雲國鷺港 勇栄運丸
 熊谷常蔵 松谷徳松
 （右狛犬台座）山本八右エ門
 由来：出雲國鷺港は島根県大社町鷺湾。「北海道に船を出していた。」と熊谷常蔵の子孫は伝え聞いている。

②〇三十三観音



紀伊國 西国一番 那智



紀伊國 貳番 紀三井寺



紀伊國 三番 粉河寺



泉州 四番 巻尾寺



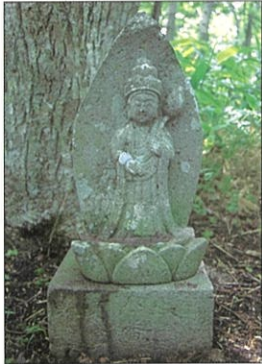
河内 五番 藤井寺



大和國 六番 壺坂寺



大和國 七番 岡寺



大和國 八番 長谷寺



奈良 九番 南円堂



山城 十番 三室戸寺



山城 十一番 醍醐寺



近江 十二番 岩間寺



近江 十三番 石山寺



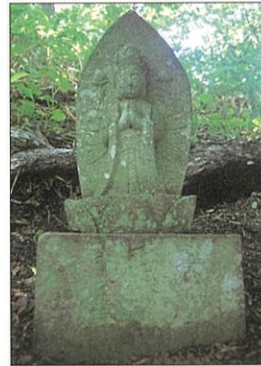
大津 十四番 三井寺



京 十五番 今〇寺



京 十六番 清水寺



京 十七番 六波羅寺



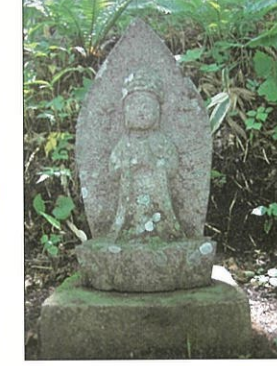
京 十八番 六角堂



京 十九番 葎堂



山城 廿番 善峰寺



丹波國 廿一番 穴太寺

三十三観音

所在地：観音山（官の山）、法光寺

建立年：明治21年（1888年）

高さ：73cm

由来：三十三観音は、観音菩薩が衆生の願いに対応して三十三身に姿を変えて法を説かれるということから、三十三観音巡礼の風習が生まれ、四国三十三ヶ所が設定された。明治21年官の山（北海道庁所管の山）に三十三体の観音像を祀る。以来、観音山と呼ばれている。三十三番目は法光寺境内に安置されている。各台座には、国名、番号、寺名が刻まれている。一部寺名以外に山号が使われたり、省略されたり、当字が使われたりしているが、各寺の所在地名などからきた建立当時の通称であろう。正式な名称は、一番青岸渡寺、四番棋尾寺、五番葛井寺、十一番上醍醐寺、十五番観音寺、十七番六波羅蜜寺、廿六番一乗寺、廿七番円教寺、卅番宝厳寺、卅二番観音正寺、卅三番華厳寺、である。三十一番は昭和57年（1982）に新しく建立されたもの。



津ノ國 廿二番 総持寺



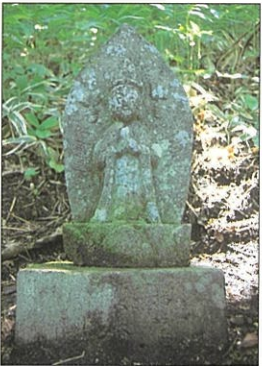
津ノ國 廿三番 勝尾寺



津ノ國 廿四番 中山寺



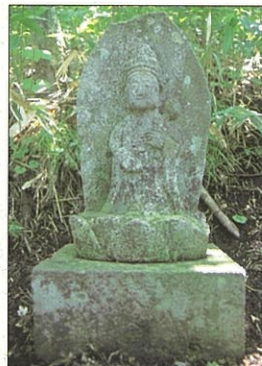
薩摩國 廿五番 清水寺



薩摩國 廿六番 一乗寺



薩摩國 廿七番 書寫寺



丹后國 廿八番 成相寺



丹后國 廿九番 松尾寺



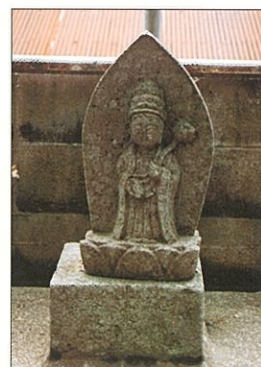
近江國 卅番 竹生島



近江國 卅一番 長命寺

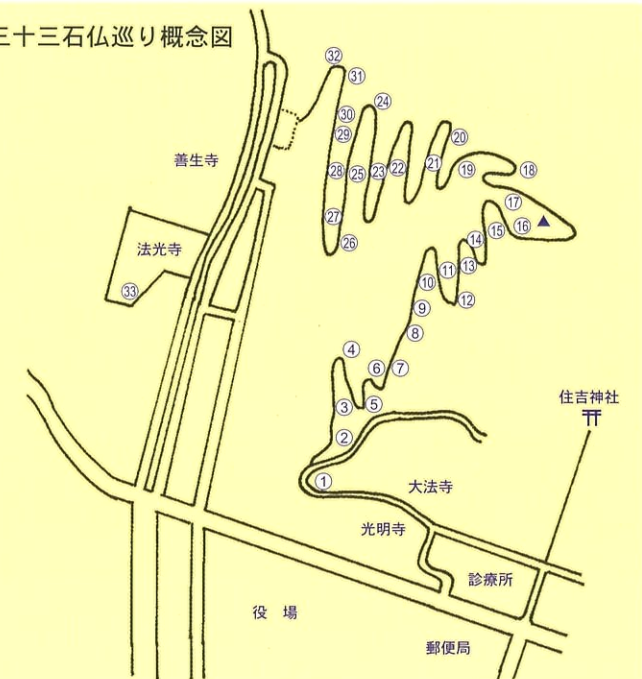


近江國 卅二番 観音寺



美濃國 卅三番 谷汲寺

三十三石仏巡り概念図





②①石燈籠

所在地：住吉神社裏
 建立年：明治31年（1898年）
 刻字：（中台）奉納 福原廣吉 明治三十一年八月十五日
 （中台）奉納 川村全作 明治三十一年八月十五日
 （台座）福原熊蔵 林重吉 渡辺藤平 林清六 池田源造
 川上市之助 水野仰助 小秋総三郎



②②故幌泉産馬改良組合頭取林重吉君

所在地：歌別通称産馬の沢
 建立年：明治36年（1903年）
 刻字：（表）紀碑 故幌泉産馬改良組合頭取林重吉君
 （裏）紀元二千五百六十三年 達而不離道心囂々矣¹⁾ 明治三十六年八月建設
 <書き下し文>「達して道に離れず心囂々²⁾」
 1) 矣（たり）：置字（読まない） 2) 囂々：ごうごう（満足して欲のないさま）
 （台座表）高橋七重郎、木島大照齋、高橋理吉、林三郎、本間菊蔵、山本八右衛門、福原熊蔵、守田安右衛門、川村菊蔵、福原廣吉、
 奥田真次郎、柳三吉、吉田勘之助、西川岩二郎、三浦弥助、守田兵次郎、寺井重太郎、林ヤヨ、福原サト、守田サワ、守
 田チヨ、大内タカ
 （台座右）清鷺原一忠 書
 世話人 出雲國鷺港 芻築運丸船長 熊谷助次郎
 石工 松口市 菊川嘉太郎

高さ：212cm
 由来：林重吉は天保13年8月5日青森県下北郡土間村に生まれる。万延元年函館林儀助の養子となる。明治5年資金一萬円で商品を仕入れ幌泉村へ来て回漕業と旅人宿を営む。明治8年より20年まで幌泉村総代。明治10年仮教場の設置に努力、明治11年幌泉小学校創設に功績があった。明治18年には日高十勝両国聯合創設昆布製造改良組合を組織し、明治20年には幌泉水産物営業組合、漁業組合頭取として15年間に在職した。明治20年には現在のえりも農場に幌泉産馬改良組合を組織し頭取となる。明治34年幌泉汽船株式会社を創設初代社長となる。明治35年隣家の火災により焼死。幌泉産馬改良組合はその功績を記念し、金150円を投げ記念碑を建立。



②③無始無終維徳維彰 故林重吉君之碑

所在地：本町法光寺
 建立年：明治37年（1904年）
 高さ：187cm
 刻字：（表）無始無終維徳維彰 故林重吉君之碑
 幌泉回漕組
 （裏）明治三十七年三月建之
 由来：幌泉回漕組が功績を記念し、金100円を投げ記念碑を建立した。



②4 忠魂碑

所在地：本町
建立年：明治40年（1907年）
高さ：293 c m
刻字：（表）忠魂碑

（裏）明治三十七八年役戦死者
陸軍歩兵曹長勲七等功七級 梁瀬八十次
陸軍工兵上等兵勲八等功七級 四ツ谷嘉七
陸軍工兵上等兵勲八等 新松幸三郎
陸軍工兵一等卒勲八等功七級 大山福太郎
陸軍歩兵一等卒勲八等 梅本徳太郎
陸軍歩兵一等卒勲八等 大門宇太郎

明治四十年九月建立
昭和八年二月二十一日満州事変戦病死者
故陸軍歩兵上等兵勲八等 野邊鐵三郎

由来：日露戦争、満州事変の戦没者慰霊碑
平成12年（2000年）秋、新しい慰霊塔が建立され、整理された。



②5 陸軍歩兵曹長勲七等功七級 梁瀬八十次 墓

所在地：本町法光寺
建立年：明治37年以降（1904年以降）
高さ：200 c m
刻字：（表）陸軍歩兵曹長勲七等功七級 梁瀬八十次 墓
（側面）梁瀬八十次君墓誌銘 仙台佐佐木巳陵書の刻字があるが省略する。

由来：日露戦争、満州事変の戦没者慰霊碑



②6 鮫供養塔

所在地：本町法光寺
建立年：大正10年（1921年）
刻字：（表）鮫供養塔
（裏）大正十年十一月 鮫釣一同之建

高さ：120 c m
由来：サメ漁は、明治後半から大正時代にかけて盛んであり、フカひれは清国に輸出され、塩蔵肉は函館方面に販売されていた。鮫の供養と豊漁を祈願したのであろう。



②7 中澤徳兵衛之碑

所在地：笹舞神社
建立年：大正13年（1924年）
刻字：（表）頌徳 <碑文省略>
大正十三年十一月三日
幌泉郡幌泉村長勲七等鹿野約幹 選文
北海道庁浦河支庁届 北口牧 書
（裏）近呼笹舞漁業組合長
発起人理事田村百太郎 幌泉村大字近呼笹舞両村有志建立
函館船見町 石匠 福田斉太郎

高さ：264 c m
由来：中澤徳兵衛氏の功績を讃える碑。天保12年（1841）岩手県鍛ヶ崎町に生まれ、安政5年（1854）幌泉村に移住、サケ建網の改良、コンブの繁殖保護に従事、明治16年幌泉村漁業組合取締人、村議会議員として地方公共に貢献、教育の改善、産業の振興に努力し、村民をリードした功績を後世に伝える碑。

②8 故広嶋萬吉之碑

所在地：本町法光寺
建立年：大正15年（1926年）
刻字：（表）故広嶋萬吉之碑
（台座）幌泉村共同牧場
（裏）大正十五年三月建立

高さ：129 c m
由来：明治43年（1910）火災予防組合が設立され、初代消防組頭に選出されている他、南部家奥地に共同牧場を開き馬産振興に貢献した。没後5年を経て共同牧場の牧場主等が建立した。

②9 海難交通事故地蔵尊

所在地：近浦
建立年：大正12年（1923年）
高さ：73 c m
碑文：（表）大正十二年十一月廿五日建立
（裏）発起人 田村コノ 村上ナミ

由来：大正10年頃、大謀網（定置網）漁の際、突然ひかたの風（南西の風）に変わり、時化となり、手漕ぎの船が遭難し13名が命を失い、わずか2名が救助された。その遭難者の供養地蔵。碑文「昭和二十二年五月建立」の地蔵とともに、不慮の事故で亡くなった地域の40数名が供養され、地域住民によって奉られている。



岬地区



庶野地区

③〇震嘯罹災記念

所在地：岬、庶野

高さ：535 c m

建立年：昭和8年（1933年）

碑文：（表）震嘯罹災記念 北海道廳長官正四位勲三等佐上信一著

（右）昭和八年十二月 建立

（左）地震海鳴りそら津波

（裏）この記念碑は朝日新聞社寄託の義援金二十餘萬圓を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです。

石巻市石井敬三郎刻

由 来：昭和8年3月3日未明、三陸沖で発生した地震による津波が幌泉村を襲い、えりも岬地区、庶野地区を中心に大きな被害が生じた。津波は地震発生後30分間の間隔において3回来襲し、3回目にはその波高は14.2mにも達し、死者13名、負傷者56名、家・建物の倒壊90棟など総額34万圓（現在だと約20億円）の被害があった。この碑は被害の生じた町村へ分配された義援金の残額を使って建立され、地震の恐ろしさを後世に伝えている。なお、庶野地区の碑は倒壊の恐れがあったため平成九年に整備された。



③1山門寄贈者

所在地：本町法光寺

建立年：昭和5年（1930年）

高さ：103 c m

碑文：（表）山門寄贈者 吉田勘之助 吉田ヨシエ 殿

（右）昭和五年仲秋三世壽光代

（左）なし

（裏）大工棟梁津田悌二

由 来：昭和5年（1930）二山門を寄贈した寄進者へのお礼の碑。

現在の山門は昭和26年（1951）に改築されたもの。

③2手水鉢

所在地：本町法光寺

建立年：昭和17年（1942年）

高さ：39 c m

碑文：（表）奉納

（右）昭和十七年六月 加藤庄平 平野善吉





③③豊国丸殉難者追悼碑

所在地：襟裳岬
 建立年：昭和10年（1935年）
 碑文：（表）豊国丸 殉難者追悼碑
 海軍中将正四位勲二等功五級四電考輔 書
 （裏）＜碑文省略＞
 昭和十年四月二十二日
 幌泉村長 松浦作蔵 小越漁業組合長 堀合鶴治 八木本店
 由 来：昭和4年（1929）4月22日、午前6時函館港を出港した函館市長谷川藤三郎氏所有、柿野商会扱い汽船「豊国丸（ほうこくまる）」（2,343トン、高井甚三船長以下33名）が、函館市西浜町28番地株式会社八木本店の漁夫176人を乗せて、カムチャッカ東海岸アナターチャーへ向け航行中、襟裳岬にて暗礁に乗り上げ座礁、遭難、沈没。22日午後8時50分札幌放送局にてSOSを受信、放送を中断して報道した。78名が死亡、その追悼碑。平成3年に倒壊したが、台座を新しく再建した。



③④お稲荷様

所在地：歌別稲荷神社
 建立年：昭和7年（1932年）
 高さ：130cm
 碑文：右（表）奉
 （裏）施主 岩間幸次郎 昭和七年九月一日
 左（表）納
 （裏）施主 岩間幸次郎 昭和七年九月一日



③⑤手水鉢

所在地：歌別稲荷神社
 建立年：不明
 高さ：33cm
 碑文：（表）奉納 平野高蔵



③⑥寺井重太郎翁頌徳碑

所在地：東洋歌露
 建立年：昭和10年（1935年）
 碑文：（表）寺井重太郎翁頌徳碑 陸軍大将西義一書
 （裏）＜碑文省略＞
 幌泉郡幌泉村長 松浦作蔵 撰
 札幌鐵道局書記 松浦要蔵 書
 昭和十年五月建立
 彫刻人 幌泉村 枝津要之助
 高さ：320cm
 由 来：寺井重太郎翁は慶應元年（1865）磯谷村大字能津登村（現在の寿都町磯谷町能津登）に生まれ明治16年（1883）大字歌露に移り、漁業と牧畜に従事する。明治24年総代、明治39年初代幌泉村議員となり、日高実業協会会長、幌泉水産会長、歌油漁業組合長などの公職を歴任、地方自治の向上、教育、産業の発展に尽力し、その人柄と功績を讃え、歌露油駒両地域住民が建立した。

馬頭観音（馬頭観世音菩薩）

梵名ハヤグリーバァ、馬の頭を持つ者の意。頭上の馬は転輪聖王の宝馬が四方を駆け威伏するように、生死の大海を渡って四魔を承服させる大威力や大精進を現わし、無明の重障を食い尽くす意味がある。馬頭観音は牛馬に関する職業組織や個人によって、馬の供養や無病息災を願い建立されているものが多い。町内においても明治時代から軍馬の生産が盛んであり、各地に残されている。ここでは、獣魂碑も馬頭観音と同じ扱いにした。

猿留山道沼見峠の「馬頭観世音菩薩」（「観」に注）は前述している。各石碑の由来については省略した。



③⑧
所在地：苦別妙見神社
建立年：不明
高さ：65 c m
碑文：なし



③⑨
所在地：本町大和
建立年：大正12年（1923年）
高さ：80 c m
碑文：（表）馬頭観音
（裏）大正十二年八月十七日



④⑩
所在地：庶野
建立年：昭和2年（1927年）
高さ：123 c m
碑文：（表）奉納
（裏）昭和二年八月建之
庶野村信者一同



④①
所在地：歌別旧種付場
（平成9年えりも中学校裏より移設）
建立年：昭和10年（1935年）
高さ：217 c m
碑文：（表）名馬フィック號之碑
日高畜産組合 前田豊次郎 書
（裏）＜碑文省略＞
昭和十七年日七月建之
日高畜産組合幌泉區長
松浦作藏 撰
石巻市 石井敬三郎 判



④②
所在地：歌別旧種付場
建立年：昭和12年（1937年）
高さ：81 c m
碑文：（表）馬頭観世音
（裏）昭和拾貳年六月貳拾三日
平野



④③
所在地：歌別旧種付場
建立年：昭和50年（1975年）
高さ：200 c m
碑文：（表）馬頭観世音菩薩



③⑦
所在地：歌別上歌別神社
建立年：大正11年（1922年）
高さ：165 c m
碑文：（表）馬頭観世音芳殿號
（裏）大正十年旧五月十七日
三浦富藏 建之



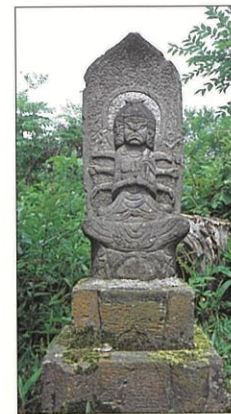
④④
所在地：東洋歌露神社
建立年：不明
高さ：154 c m
碑文：(表) □安中組
(裏) □□□□
寺井□□



④⑤
所在地：笹舞
建立年：昭和14年(1939年)
高さ：157 c m
碑文：(表) 昭和十四年
十一月二十二日
馬頭観世音
山本氏



④⑥
所在地：大和和里
建立年：昭和36年(1961年)
以前
高さ：63 c m
碑文：昔は書かれていた
という。



④⑦
所在地：目黒
建立年：昭和5年(1930年)
高さ：112 c m
碑文：
(台座) 昭和五年十一月
猿留共□□□□
かつては「虎落とし」にあ
った。



④⑧
所在地：東洋
建立年：不明
高さ：66 c m
碑文：なし



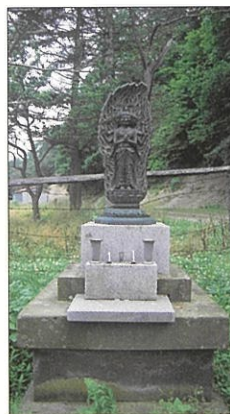
④⑨
所在地：歌別産馬の沢
建立年：昭和46年(1971年)
高さ：82 c m
碑文：(表) 獣魂碑
(裏) 昭和四十六年十一月
十四日
寺田政見 建立



④⑩
所在地：大和
建立年：昭和45年(1970年)
頃
高さ：60 c m
碑文：なし



④⑪
所在地：えりも岬
建立年：昭和49年(1974)頃
高さ：59 c m
碑文：(表) 馬魂碑



④⑫
所在地：菅別
建立年：不明
高さ：200 c m
碑文：なし



④⑬
所在地：本町沢町
建立年：昭和54年(1979年)
高さ：200 c m
碑文：奉祭祀南無馬頭観
世音菩薩畜類一切
擁護之廻
(裏、右、左) 省略



④⑭
所在地：東洋
旧テニスコート裏
建立年：昭和54年(1979年)
高さ：136 c m
碑文：(表) 馬頭観世音
(裏) 昭和五十四年
五月十七日
東洋肉牛実行組合建之



④⑮
所在地：東洋
建立年：昭和56年(1981年)
頃
高さ：114 c m
碑文：(表) 馬頭観世音



⑤⑥ 白龍神

所在地：目黒豊似湖

建立年：昭和11年（1936年）他

碑文：若竹龍神

白龍神大菩薩 猿留村 中野リン 本間マナ 外信者一同
建立 昭和貳拾七年拾一月貳拾五日 石岡伊三郎 など

由来：豊似湖の対岸、丘の上に白龍神が祭られている。



⑤⑦ 豊受稻荷大明神

所在地：庶野

建立年：昭和11年（1936年）他

碑文：庶野村船入調 昭和十一年六月九日 佐々木仁太郎
奥山伴僧坊大権現 豊受稻荷大明神

由来：コンクリート製の柱と祠があるが、御神体は信者が持っていた。「仙台っこ」と呼んでいたという。山中の奥山伴僧坊大権現と同じ信仰。



⑤⑧ 奥山伴僧坊大権現

所在地：目黒と庶野の境界、観音岳の稜線

建立年：不明

高さ：45 c m

碑文：奥山伴僧坊大権現

由来：外側の祠はコンクリート製。



⑤⑨ 不動明王

所在地：目黒

建立年：昭和13年（1938年）

高さ：65 c m

碑文：奉納 昭和十三年七月二十八日 中野リン

由来：不動明王は単に不動尊、お不動さんとも呼ばれる。障害を持つ諸々の敵を破り、行者の諸願を成就し、諸々の災害を除き、財富を与える仏尊として信仰を集めた。



⑥0手水鉢

所在地：本町住吉神社
 建立年：昭和11年（1936年）
 高さ：60cm
 碑文：（表）奉納
 （裏）昭和十一年九月吉日
 寄附人 寺井重太郎



⑥2燈臺局所轄

所在地：えりも岬
 建立年：不明
 高さ：46cm
 碑文：燈臺局所轄
 由来：灯台敷地の境界杭。



⑥1子授け石仏

所在地：本町法光寺
 建立年：昭和28年（1953年）
 高さ：85cm
 碑文：（表）遭難霊 第三高砂丸
 （裏）昭和廿八年八月建之

由来：子供にめぐまれない漁師の夢枕に、昭和17年遭難沈没した第三高砂丸の船頭があらわれ、「われわれは底引き漁業の操業を終わり大漁をして室蘭港へ帰途についたが途中大時化にあい白老沖で沈没し全員遭難したものです。船員全員の供養をしてくだされば子供を授けよう。」と語った。漁師は早速石仏一体に第三高砂丸と刻んで供養したところ、霊験まさにあらたかにしてその漁師夫婦の間に玉のような男の子が授かったという。



⑥3大横断

所在地：目黒
 建立年：不明
 高さ：30cm
 碑文：大横断
 由来：不明



⑥4 頌徳碑

所在地：東洋東洋小学校裏

建立年：昭和18年（1943年）

高さ：212cm

碑文：（表）頌徳 裕書

<碑文省略>

昭和十八年十二月 北海道帝国大学総長従三位勲二等 今裕

閣下題額 辱知 鹿野約翰

（裏）建立者 東洋部落一同

由 来：田口小亮先生の頌徳碑。田口先生は明治13年（1880）秋田県山本郡二ツ村に生まれ、秋田県師範学校に入り、北秋田郡澤口米内澤大館第三尋常小学校に歴任、明治40年北海道山越郡訓縫尋常小学校、明治41年三石尋常高等小学校を経て、明治42年油駒尋常小学校訓導兼校長となる。昭和17年4月29日国旗掲揚の祭、児童の危害を救おうとして事故にあい、12月11日に他界した。東洋地区有志が田口先生の教えを慕い、先生の来歴を記するこの頌徳碑を建立した。



⑥5 狛 犬

所在地：庶野庶野神社

建立年：昭和18年（1943年）

高さ：112cm

碑文：（表）奉納

（右）奉納 佐渡國出身 矢部光太郎
同 千恵

昭和十八年五月五日建之

由 来：佐渡から移住し、庶野に矢部商店を開き商いをしていたが、佐渡に戻った。

⑥6 手水鉢

所在地：庶野庶野神社

建立年：昭和5年（1930年）

高さ：43cm

碑文：（表）奉納

（右）昭和五年九月吉日 川辺政治

石工 薄田健助

⑥7 狛 犬

所在地：本町住吉神社

建立年：昭和19年（1944年）

高さ：194cm

碑文：奉納 昭和十九年九月吉日 川村重次郎



⑥8無縁大地蔵尊（三界万霊塔）

所在地：本町法光寺
 建立年：昭和11年（1936年）
 高さ：約6m
 由来：各地の寺院や墓地の一隅に建立されている。「三界」は仏教用語で欲界・色界・無色界とか、心界・衆生界・法界とかの諸説があるが、亡くなった人のあらゆる霊（万霊）が、この三界万霊塔の建立によって回向されるものと考えられている。法光寺のものは昭和11年天皇来道記念に建てられた。町内の各墓地にも建立されている。



⑥9 庶野墓地



⑦0 本町墓地



目黒墓地

⑦1六地藏

寺院の門前や墓地の入口に6体並んで見られるのが一般的である。町内の各墓地にも見ることができる。地藏が六道を巡って衆生を救うという信仰で、平安時代末頃に始まった日本独自のもの。

その他、墓石については、目黒墓地、庶野墓地に江戸時代から明治時代の古いものを確認している。

おわりに

3年に渡る調査の結果、数多くの石碑石仏が町内にあることがわかりました。調査が不十分な部分は、今後さらに調査研究を進めたいと考えています。

石碑石仏を共に調査していただいた町民有志に感謝いたします。

植木尚 大平恵子 川村由嘉利 草野泰子 河野広
 坂本美地子 新松隆 新松信子 鈴木勝美 中岡俊子
 長岡菊也 長岡悦子 長坂直道 山科幸一 山科静子
 （敬称略、五十音順）

また、新潟県能生町児童館図書館長利根川晃義氏、香川県詫間町公民館第七支館長中田勝久氏、鳥根県大社町立図書館蒲生倫子氏、佐藤尚徳氏、えりも高校千田哲也教諭、道都大学短期大学部田端宏教授のご指導・ご協力をいただきました。

主な参考文献

曹洞宗佛国山法光寺史（1982）開教百年記念事業奉讃会
 えりも町史（1971）えりも町
 日本石仏図典（1986）国書刊行会
 北海道地名大辞典（1987）角川書店
 礫石経の地域相（1994）考古学論究第3号

町内一円を調査しましたが、未掲載の石碑石仏がありましたら郷土資料館までお知らせください。

えりも町 ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏

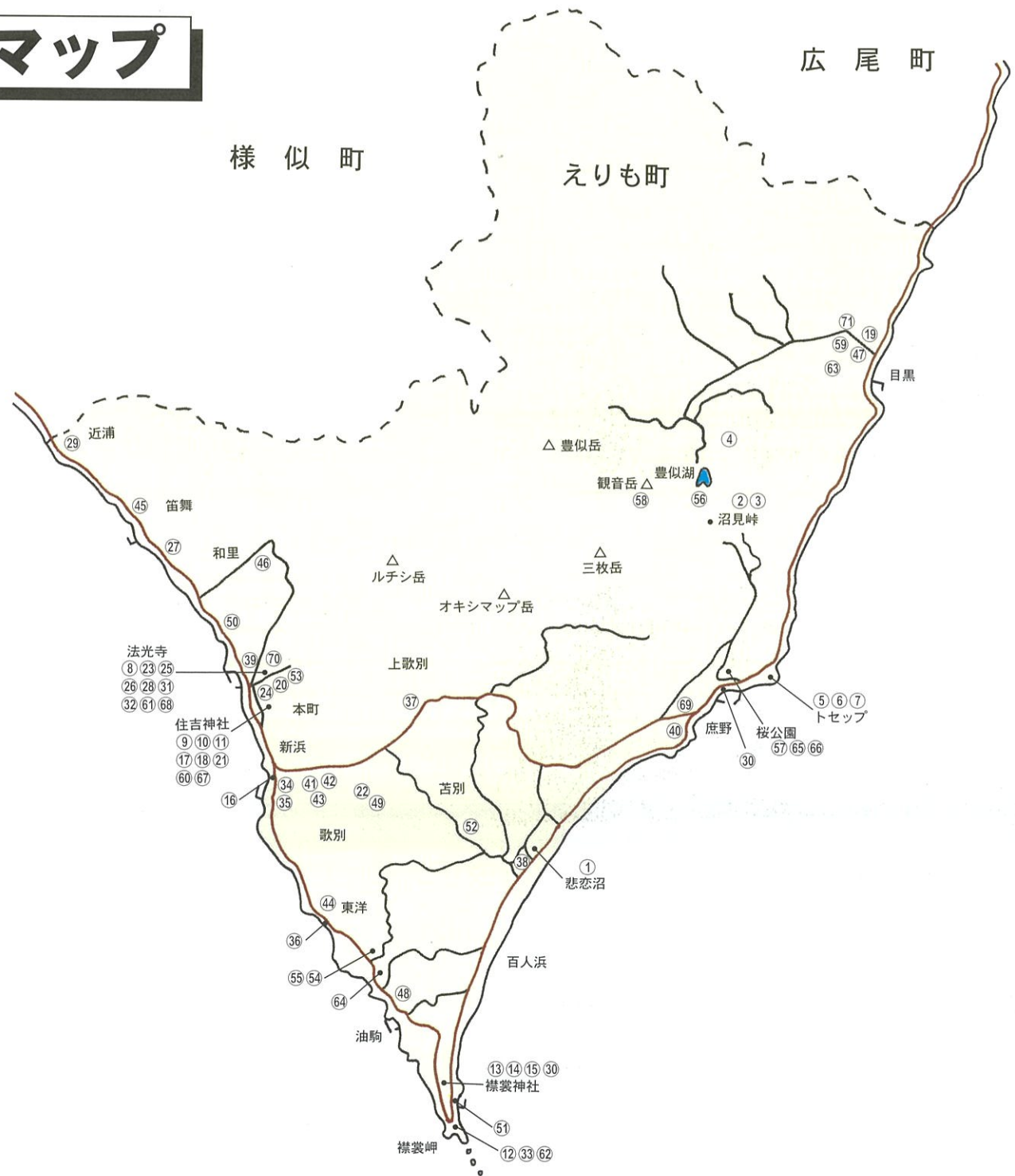
発行：えりも町教育委員会
 えりも町郷土資料館ほろいずみ
 〒058-0203
 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地
 TEL&FAX：01466-2-2410
 E-mail：erimomus@cocoa.ocn.ne.jp

発行年月日：2000年10月1日
 作成：中岡利泰
 印刷：有限会社 三上印刷（浦河町）



この冊子は再生紙を使用しております。

えりも町石碑石仏マップ



- 石碑石仏見学の時は
管理者の許可を受け、
マナーを守りましょう。
- ふるさとの文化財と
して、大切にしましょう。